

2014年6月12日
日立マクセル株式会社

高価なタッチパネル部材の再利用を可能にする薄膜粘着テープを開発

～再剥離性に加え、基材なしの構造により、25 μ m(マイクロメートル)の薄さと高い透明性を実現～

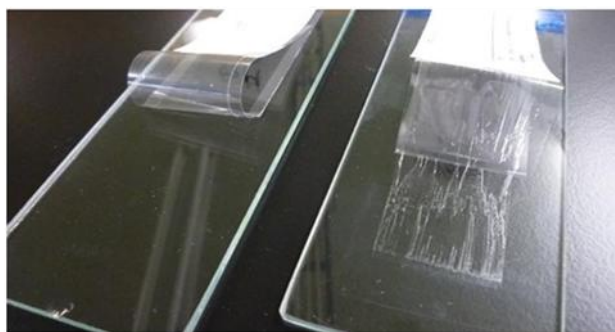
日立マクセル株式会社(取締役社長:千歳 喜弘/以下、マクセル)は、普及が進むスマートフォンなどモバイル端末のタッチパネル部材の固定用として、新たに開発した粘着剤を使用することで再剥離性を持たせるとともに、基材なしの構造を採用して25 μ mの薄さと高い透明性を実現する両面の薄膜粘着テープを開発しました。

この粘着テープで、2015年度に売上高3億円以上をめざします。

このテープの表面と裏面に、マクセル独自の技術によって開発した異なる機能の粘着剤をそれぞれ配置しました。テープの片面には再剥離性を持たせ、容易な貼り直しを可能としました。

再剥離性を持たせたことで、タッチパネルとその上面側に使用される各種部材を貼り合わせる工程において、部材の貼り付け位置を修正する場合でも、容易な貼り直し作業が可能になります。ガラスセンサーなどの高価な部材を無駄なく使用できるようになるとともに、製造工程における作業効率の向上、不良低減や廃棄物削減、コストダウンに寄与できます。

また、この粘着剤は、ガラスセンサーに使用されている透明導電性素材の酸化インジウムスズ(ITO)の導電性を劣化させない機能を有しています。



再剥離可能面での剥離(左) 強粘着面での剥離(右)

さらに、基材なしの構造にすることで薄さ25 μ mを実現するとともに、全光線透過率92%以上*1、ヘイズ(曇価)0.3%以下*2という高い透明性を持たせ、従来のフィルム基材の粘着テープと較べて視認性が向上しました。

*1 全光線透過率92%以上: 試験片の平行入射光束に対する全透過光束の割合、マクセル調べ

*2 ヘイズ(曇価)0.3%以下: 光学用PET(ポリエステル)フィルムでヘイズ0.3%、マクセル調べ

モバイル端末には軽さと薄さ、画面の見やすさが求められているほか、製造工程においては作業効率の向上や不良率低減への要求が高まっており、この粘着テープで 2015 年度に売上高 3 億円以上をめざします。

今後もマクセルは、粘着テープの製造工程におけるクリーンな配合、混合、塗工、乾燥、検査など粘着技術の開発に取り組み、ユニークかつ高品質な機能性部材を提案していきます。

以上